



みよし剛史



塩沢みつえ

発行：日本共産党
福山市議会議員団
津之郷町津之郷 970-1
084-952-2662

大規模災害への備えが急務

避難所の充実・強化を

熊本地震では多くの避難所の体育館に空調設備が無く、固い床の上で雑魚寝している状況も見られており、災害関連死も生じました。

大規模災害への備えとしての避難所の在り方が問われており、みよし市議は9月定例会の一般質問で避難所機能の強化を求めました。

災害関連死の防止 安全な生活環境を

市は、今後4年間で全ての学校体育館に空調を整備し、災害備蓄拠点倉庫を設置して避難所機能の強化に取り組む方針です。

みよし市議は、災害関連死を防止するには、トイレ、キッチン、ベッドなど、被災者に安全な避難所環境を迅速に提供することが重要で

基幹緊急避難場所への災害備蓄物資の状況

設置物資A (小中学校・支所・その他)				設置物資B (交流館・コミュニティ)			
No	品目	数量	備考	No	品目	数量	備考
1	アルファ化米	4箱	200食	1	アルファ化米	4箱	200食
2	ライスクッキー	8箱	384食	2	ライスクッキー	8箱	384食
3	毛布	5箱	50枚	3	毛布	5箱	50枚
4	簡易トイレ本体	2箱	2台	4	簡易トイレ本体	2箱	2台
5	汚物袋	2箱	200枚	5	汚物袋	2箱	200枚
6	間仕切りユニット	20箱	20張	6	間仕切りユニット	4箱	4張
7	屋内用ルームテント	1箱	1張	7	屋内用ルームテント	1箱	1張
8	小型テント	1箱	5張	8	小型テント	1箱	5張
9	ベッド・マットレス	5箱	20台	9	ベッド・マットレス	1箱	4台
10	ラジオ	1個	1個	10	ラジオ	1個	1個
11	懐中電灯	4個	4個	11	懐中電灯	4個	4個
12	安全キャンドル	2個	2個	12	安全キャンドル	2個	2個
13	工場扇	1箱	1個	13	工場扇	1箱	1個
14	コードリール	1箱	1個	14	コードリール	1箱	1個

(2026年4月1日現在)

あることを示した上で、今後の避難所機能の充実について市長の認識を質しました。市長は「避難者の生命と健康を守るためには、生活環境の整備が重要」とし、「今後整備する備蓄拠点倉庫も活用し、備蓄品目の追加、数量の拡充を図るとともに、より円滑で迅速な配送体制の確保に取り組む」としました。災害関連死を生じさせないためにも、避難所機能の一層の充実が必要です。

深刻な豪雨災害が各地で続発

浸水から命を守る対策を

全国各地で豪雨災害が続発しており、特に千葉県の大雨では都市部の内水氾濫で人的被害も生じました。

8月13日には市東部でも局地的短時間の大雨が降り、手城川は一時氾濫危険水位に達し、道路冠水による通行止めが複数生じました。

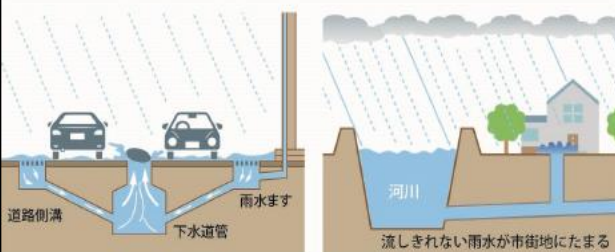
平成30年豪雨を受け、市が整備した蔵王雨水幹線には、約9200トン(25mプール23杯分)の雨水が流入していましたが、手城川周辺には雨水観測所が設置され

ておらず、実際の雨量は観測されていませんでした。市は、大雨の際に安全な避難経路が確認できるよう、地域ごとの内水氾濫の想定を示す内水ハザードマップを作成しましたが、予測困難なゲリラ豪雨に対応するためには、迅速な大雨情報提供も必要です。

みよし市議は市が独自に雨水観測システムを導入し、市民へリアルタイムでの大雨情報を提供する仕組みを構築するよう求めました。



大雨が降ると、雨水が排水できなくなり、宅地や道路の浸水が発生します。



内水ハザードマップとは？

内水氾濫によって想定される浸水区域や浸水の深さ、緊急避難場所などの情報をまとめたマップです。
内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。

(福山市内水ハザードマップより抜粋)

真夏の子どもたちの居場所が拡充

居場所のさらなる充実を

年々厳しさの増す夏の酷暑の状況から、「外遊びができない」「家の外の行き場がない」と子育て世帯から切実な訴えを受け、市議団はこれまでにこどもの居場所の整備を繰り返し求めてきました。が、今夏から新たな居場所の拡充の取組が実現しました。

新たな居場所設置 約300人が利用

市は、今年度新たに5カ所の交流館にキッズスペースを設置して、計16カ所で取組を本格実施し、加えて4カ所の拠点支所の児童室を、夏季限定の未就学児用の居場所として試行設置しました。

児童室には子育て支援ボランティア・キラキラサポーターの方々の協力により、こどもの見守りや保護者への相談対応も行われ、約1か月間で延べ285人の利用がありました。

また、拠点支所の市民サロンは通年で小学校以上のこどもにも開放されていますが、夏休み中は延べ942人が利用しており、夏の居場所はこどもの生活環境に不可欠となっています。

児童館相当の機能 既に全域で展開？

塩沢市議は、今後のこどもの居場所は場所の提供に止まらず、子育て支援として取り組むことが重要であり、まずは各支所に子育て支援の専門員を配置することで、児童館相当の機能を整備するよう求めました。

対して市長は、「児童館が担う機能は、既に市内全域に展開している」との認識で、専門員も児童館も「考えていない」と答えており、居場所機能の充実の考えがありません。子育て世帯の声に耳を傾けるべきです。